

金子耕式の **その10** ファミリートーク

北海道と沖縄県にて好評放送中!!



石川遼君の両親

2009年、日本のゴルフ界は石川遼の話題で持ち切りでした。わずか17才にして、全英オープンに出場し、その後も日本の賞金王の座を争うほどの健闘ぶりをみせる遼君は、ゴルフの才能だけでなく、礼儀正しくしっかりと話した話し方をする点でも好印象を与えてくれました。以前テレビ番組に出演した彼に、司会者がこう尋ねました。「遼くんは話し方がものすごくしっかりしてますね。それは、厳しく躰けられたからですか？」すると遼君は答えました。「いろいろな本を、母も父も、おばあちゃんもおじいちゃんも読んでくれました。まあ、母と過ごす時間が一番長かったのですが、いつも本を読んでくれました。でも同時に、母はすごく厳しかったです。」

さて、みなさんはどうお感じですか。私は、遼君は幸せな子どもの典型だと思えます。時間と感動を共有し、ただ優しいだけでなく、時には厳しく大切なことを指導してくれる。そんな親のもとで暮らして行ける子どもは、なんと幸せなことでしょう。ご両親は、ただ、「勉強しなさい、本を読みなさい」と言うのではなく、いつも一緒に本を読んできたのです。子どもはそこからどんなことを学び取るでしょうか。もちろん、たくさん本から、多くの知識を得るでしょう。でも、それ以上に、時間をかけて関わってくれる

親から「自分は愛されている」というメッセージを受け取るのです。遼君を見て、多くの親たちが「うちにもあんな子どもがいたらいいな」と言いますが、そうではなく、私たちがこそ自分の子どもに対して、どのような親になるかが問われているのではないのでしょうか。

子どもにとっての名コーチ

子どもを育てる親たちは、スポーツ選手の実力を最大限に引き出す名コーチから多くのことを教えられます。タイガー・ウッズを育てた名コーチ、ブッチ・ハモンドはタイガーよりゴルフが上手かつたわけではありませんが、北島公介選手を指導した名コーチ平井伯昌さんは北島選手より早く泳げたわけではありません。では、なぜ彼らは名コーチと呼ばれるのでしょうか。名コーチに共通した資質とは何でしょうか。

それは、指導する選手に徹底的にかかわり、選手の性格や能力や癖に至るまで、他の誰よりも、そして選手本人よりも気付くことです。北島選手の泳ぎを小さい頃から見続けて来た平井コーチは、準決勝の泳ぎを見た時に「これでは決勝を制することは出来ない」と判断しました。勝ちを意識しすぎて、力が入り、つい水をかく回数が増えて、泳ぎに伸びがなくなっていたのです。そこで、平井コーチは50メートルで19回だったストロークを3回も減らすようにアドバイスしました。その結果が、

あの輝かしい金メダルでした。

さて、あなたは親として子どもにどれだけ情熱をかたむけてかわわっているのでしょうか。もし、時間をかけて子どもと過ごすことがなければ、子どもの能力や、可能性を見抜くことは出来ません。子どもが抱えている問題や悩みに気付くこともできないでしょう。あなたにとって、お子さんはかけがえのない存在であるはずですが、それなら、スポーツ選手を育てる名コーチたちを大いに見習うべきなのです。

「家族に贈るっておきの話」 Vol.3



四六版変形上製本、149P
●定価 1,575円

「家族に贈るっておきの話」 Vol.2



四六版変形上製本、148P
●定価 1,575円

「家族に贈るっておきの話」 Vol.1



四六版変形上製本、151P
●定価 1,575円

ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフで元アナウンサーの金子耕式が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。